

# 高知大学 病院 ニュース

〔編集〕

高知大学病院ニュース

編集委員会

委員長 佐野 栄紀

〔発行人〕

高知大学医学部附属病院

病院長 杉浦 哲朗

## 相良賞(銀賞)が授与されました

『相良賞』とは、先端医療学推進センターの創設、  
基金の確保及び設立に多大な貢献をした

相良祐輔前学長の功績を記念して、創設された賞です。

先端医療学コースを履修中に、顕著な研究成果を挙げた学生を表彰する制度で、  
3年間を通じた研究成果を称える『金賞』と、各年度の研究成果を称える『銀賞』があります。

### 「相良賞(銀賞)受賞について」

医学科4年 久 雅行



この度、相良高知大学前学長のご高配により、先端医療学推進コースに所属する私たち学生の研究成果に対し相良賞が設立されました。その第一回目の銀賞受賞者の一人として、未熟ながら私が選ばれたことを大変光栄に思います。昨年の第54回日本腎臓学会学術総会での優秀演題賞受賞に引き続きこのような名誉に恵まれたのは、腎機能再生医療研究班の班長であり内分泌代謝・腎臓内科学講座教授である寺田先生のご指導の賜物であります。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

私が今回発表したテーマは、BNIP3という蛋白質の急性腎障害における役割についてです。人工透析を余儀なくされる慢性腎不全に対し、急性腎障害は様々な原因から急激な腎機能低下を来した疾患の総称ですが、一部の患者では回復が見込めます。しかし未だにその病態が不明なため、確立した治療法が無いのが現状です。そこで腎機能再生への鍵となる物質の一つとして、BNIP3という蛋白質に注目したのが今回の研究の背景です。

BNIP3は、細胞が障害を受けた際に生じるミトコンドリアの病的変化を制御することによって細胞死を防ぐ役割を果たすと考えられていますが、腎臓での働きはまだ解明されていませんでした。今回の研究では、この蛋白質の腎臓での働き的一端を明らかにしました。

この成果はまだ研究段階の域を出ないものではありますが、急性腎障害の治療を行う上でのヒントになり、将来の臨床にも還元できると希望を抱いています。

### 「相良賞(銀賞)受賞について」

医学科3年 大友 和則



このたびは榮譽ある賞を受賞することができ、大変光栄に思っております。

昨年度は「急性腎障害」に焦点を当てて研究を行いました。急性腎障害とは何らかの原因により急速に腎機能が低下し、体液の恒常性が保てなくなった状態のことを指します。予後不良の重篤な疾患であると考えられておりましたが、長年にわたって統一された診断基準がなく、2007年によろやく世界的に統一された基準が提案されました。今回の研究では高知大学医学部附属病院に蓄積されている30年間の入院患者さんのデータを用いて、統一された診断基準を適応した場合、どのくらいの頻度で急性腎障害が発症しているかを調査しました。国内で上記の基準を用いて大規模な調査を行ったのは本研究が初めてでした。調査の結果、入院患者さんの約10%が急性腎障害を発症しており、男女別では男性の方が発症率が高いことが明らかになりました。先述の通り、急性腎障害は予後が悪い疾患であるため、発症を未然に防ぐことが重要です。そのため、今後は急性腎障害のリスクとなる疾患の究明に励みたいと考えております。

学業と研究の両立は大変なことも多いですが、学部生の間に最先端の研究に触れ、自らも研究を行うことができ、先端医療学コースに在籍することができて嬉しく思っております。最後になりましたが、この場をお借りして、このような機会を与えてくださいました先生方および関係者の方々に深くお礼申し上げます。

## 新こはすキッズ 利用者の声

**そ**

そろそろ2歳になる長男が、去年から通っています。新しい園舎になってから庭ができ、砂場や芝生で遊んで虫をみつけて、長男も大喜びです。雨の日も広いお部屋でたっぷり遊んで、多彩なメニューの給食をもりもり食べ、ぐっすりお昼寝。入園した頃はハイハイしていた長男が、今やお友達のお世話をやいているようで、成長を感じます。私自身も、園の先生や他の保護者さんと気軽に子育て相談ができ、楽しんでいます。

皮膚科 青木 奈津子

**親**

子供共々新園舎の完成を楽しみにしていました。日当たりの良い室内で広々と遊べるようになりました。また芝生が張られた園庭には砂場もついており、外遊びの楽しさが増えたと思います。設置された遊具は材質や高さなどに危険がないように配慮されていると感じました。園内で調理されるようになった給食、おやつはメニューが増えて、おかわりもできて満足しているようです。今まで以上に安心して子供を預けられ、感謝しています。

眼科 横田 香奈

**私**

は子供二人がこはすキッズでお世話になっています。年々増える人数に対応し、今年新しい場所に移りました。今までなかった遊具や柵のある芝生の庭ができ内容の充実と安全性が高まりました。

そしてこはすキッズの保育は、四季折々の行事が用意されており、親子で温かい気持ちになります。また、子育てのアドバイスもくださり、細やかな対応には頭が下がります。子供自身、それを一番感じていて、先生に抱きついたり、家で先生のお話をしてくれます。安心して預ける事ができるこはすキッズに感謝しております。

看護部 丹羽 奈月

**7**

ヶ月の息子をこはすキッズにお願いして2年、おっぱい飲んで寝返りもまだだった子が、お友達や先生と遊んだことを「あのね、あのね」といっぱい話し、教わった手遊びをニコニコ笑顔で体を揺らしながら歌う、元気いっぱい2歳児になりました。新設後は、太陽ふりそそく広いお部屋になり、ますます体の動きが活発になり、給食室もでき、栄養満点のごはんと手作りおやつをいつも完食です。スタッフの方々には家での様子を話したり、相談したり、私にとって1番の子育て支援のサポーターです。喘息で入院するたびに、一緒にいてあげたいと悩みましたが、家族のように見守ってくださるスタッフの方々に安心して、息子の楽しそうな笑顔を見て、こはすキッズがもうひとつの大切な場所だと実感し、仕事を続けることができました。今日も「たっくんのママ来たよ～」のいっばいのお友達の声と、スタッフの方々から聞く今日の息子のエピソードを楽しみに迎えに行きます。

看護部 中平 絵里

### 新こはすキッズへの入所について

- 入所対象…原則、高知大学医学部附属病院職員が養育する0歳児～6歳児(就学前)
- 保育時間…基本保育 7:30～18:30
- 入所定員…45名 入所率73%  
(利用者が増えています。詳細は下記にお問い合わせください。)

[問合せ先] 高知大学医学部・病院事務部総務企画課人事グループ職員係  
TEL:088-880-2225(直通) 内線:22150

[ホームページ] <http://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/hoiku/hoikusyo.htm>



## 新採用職員紹介



検査部

楠瀬 慶二

今年度臨床検査技師として検査部で採用になりました楠瀬慶二と申します。

新採用者は一般検査に1人、免疫化学検査に2人、生理検査に1人配属されました。私は一般検査に配属され、毎日尿に囲まれて検査しています。

高校ではバスケットボールをしていたこともあり、スポーツは見るのもプレイするのも好きです。その他の趣味は、パソコンや釣り、アコースティック又はクラシックギターなどでの演奏などです。もし同じ趣味を持つ方がおられましたら、声をおかけください。

臨地実習先がこの高知大学医学部附属病院だったので、少しは病院内を知った状態でのスタートです。日々知識と経験を蓄えて、検査業務の戦力になれるよう努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



薬剤部

小松 仁美

岡山での充実した大学生活を終え、この度、地元の高知に帰ってきました。

丁度、薬学教育制度の転換期であり、6年間の大学生活となりました。

大学では、長期間にわたる病院実習や医学部生・看護学部生との合同授業があり、それらを通して今の医療においては他職種との連携がますます重要になることを学んできました。また、卒業研究として分子標的治療薬に関する臨床研究に携わっていました。これまでの研究を続けていきたい気持ちと地元への就職願望から、当院薬剤部を志望しました。

現在は、調剤、注射薬の混合、持参薬鑑別といった薬剤部業務に慣れることで精一杯ですが、新たな知識や経験の習得はとても新鮮で日々勉強です。丁寧に指導してくれる先輩方には心より感謝していますが、同時に自分の未熟さを痛感する毎日でもあります。

今後は、薬剤師として、一日でも早く患者さんの健康的な笑顔に寄与できるよう日々努力して成長していきたいと思っていますので、どうかよろしくお願いいたします。



臨床工学部

前田 紗奈

本年度4月より臨床工学技士として働かせていただくことになりました前田紗奈と申します。私が本院を志望した理由は、医育研修環境が充実し、他院に比べ臨床工学技士が携わることのできる業務が多いことから、幅広い現場で様々な経験ができるのではないかと考えたからです。また、その中で知識や技術を身につけつつ、自分の生まれ育った高知県で地域医療に貢献したいと考えたからです。また、本院では母校の先輩方がたくさん活躍されているといった話を耳にし、本院で働きたいという気持ちが更に強くなりました。そして、本年度の4月より働けることが決まり、現在は優しい先輩方にご指導いただきながら毎日楽しく頑張っています。

今後は、たくさんの経験を重ね、スキルアップを図ることで、患者さんのために臨機応変に対応できる臨床工学技士を目指し、日々努力していきたいと思います。

ご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



# 職場紹介 臨床工学部 [部へ昇格]

(文責:氏原 友三郎)

**臨** 床工学部は、平成24年4月よりメディカルサプライセンターME機器管理室から臨床工学部へと新たに生まれ変わりました。ME機器管理室が設立されたのは平成14年4月であり、10年を経過した節目の年に臨床工学部へ昇格できたのは、杉浦病院長をはじめとする皆様方の温かいご支援とご尽力の賜物と厚く御礼申し上げます。

**臨** 床工学部では、病棟、外来、手術部、集中治療部、透析部、血管造影室、周産母子センターなどで使用される院内の数多くの医療機器を、臨床工学技士による専門性の高い熟練した技術によって操作や保守管理を行っています。また医療安全管理部、RCT(呼吸ケアチーム)、DMAT(災害派遣医療チーム)をはじめとして他部署・院内チームとの連携も積極的に行うことで上述した操作・保守管理だけに留まらず、患者ケア、院内安全管理、災害対策に関与したチーム医療にも参加し、当院の安全かつ高度な先端医療を縁の下で支えています。

**現** 在の体制は、花崎和弘部長(外科(1)教授)のもと、副部長の氏原友三郎以下15名の臨床工学技士で構成されています。自慢は他大学に比べて多い技士数です。これは医療の安全は病院の要とし、医療機器の安全性の向上を目指してきた倉本前病院長、杉浦病院長の多大なるご尽力のお蔭です。業務内容は、ME機器保守管理業務、手術部業務、人工心肺業務、血液浄化業務、人工呼吸器業務、カテーテル・ペースメーカ業務、ICU業務の7部門に大きく分かれています。

**M** E機器の保守管理業務は、約1,700台の医療機器をコンピュータ管理し、年間約15,000件の点検を実施しています。中でも人工呼吸器を含め700台近い重要機器を集中管理し、臨床工学部室にて直接貸出し、返却受取りを行っています。

数多くの機器を保守管理し、集中管理することで、いつでも最良の状態でご患者さんに使用できるよう日々努力しています。

**手** 術部業務は、年間約1,500件のオーダーを受けて、手術顕微鏡、自己血回収装置、レーザーなどの準備・操作を行っています。まもなく最先端医療機器である手術用ロボット(ダビンチ)が導入されることになり、現在高知県のダビンチ初稼働に向けた準備を急ピッチで進めているところです。今後ロボット手術において臨床工学技士の果たす役割は益々大きくなることでしょう。

**人** 工心肺業務は人工心肺装置、PCPS(経皮的な心肺補助装置)、IABP(大動脈内バルーンポンピング)などの準備・操作を年間約350件実施しています。生命に直結するだけでなく、急患も多いため、緊急手術による深夜間や休祭日対応が多い、過重労働的な業務内容となっています。血液浄化

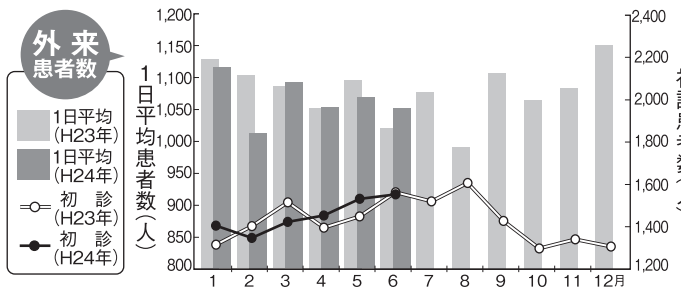
業務は、院内の手術・検査などで入院されている方の透析や急性期血液浄化などを年間約1,300件実施しています。透析は週3回の治療が必要で、急患も多く、やはり休祭日対応の多い業務であり、近年患者数も増加しています。カテーテル・ペースメーカ業務は昨年度から新規に開始した医師の補助業務ですが、昨年度は約460件実施しています。ICU業務では、ICU機器の保守管理と血液浄化・人工呼吸器業務などに対応しています。

**以** 上の業務は、更なる安全性の向上を目指してメーカー認定や学会認定を受けた専門の臨床工学技士が担当しています。臨床工学部では、これからも安全確実に迅速な医療を提供するために、医療機器のスペシャリストとして全力で診療を支援していく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻を賜ります様、何卒宜しくお願い申し上げます

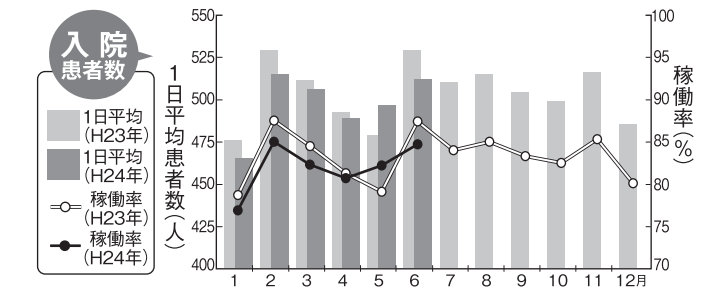


臨床工学部のスタッフ(前列中央:花崎和弘部長)

## 診療状況



5月・6月ともに1日平均外来患者数と初診患者数は横ばい。6月は昨年同月と比べるとやや増加。



5月は昨年同月と比べると患者数と稼働率が若干高い。6月は5月に比べて高いが昨年同月と比べると低い状況。

## 編集後記

一昨年度から学生を受け入れ、着実に活動を行ってきた先端医療学推進センターであるが、期待以上の成果が上がっているように見受けられる。顕著な成果を上げた学生を表彰する相良賞が設立され、2名の学生に第一回の銀賞が授与された。彼らに続く成果も上がっているようで、今後、益々の発展が期待される。一方、新病棟建設の起工式が行われ、2年半後を目指して建設が始まった。既存の建物の改修を含めた病院再開発の終了は8年後の予

定であるとのことである。これらのハード面のみならず、我が附属病院ではME機器管理室の臨床工学部への昇格、臨床研究コーディネーターの活躍、新こはすキッズによる職員のサポート、意欲あるコメディカルスタッフの採用など、ソフト面でも徐々に充実が図られている。再開発終了の暁には益々充実されるものと思われるが、コーヒー好きの小生としてはスターバックスコーヒーの撤退は少し寂しい知らせで、これに代わるショップの誘致が望まれるところである。

(文責:山本哲也)